

「将来の自分のために」



日本では子どもの頃から学校に行くことが当たり前であり、9年間の義務教育を受ける権利はすべての国民にあります。日本では当たり前である「教育を受ける権利」は、海外では、近くに学校がないために通うことができなかつたり、教えてくれる先生がそもそもいなかつたりと教育を受ける権利さえも厳しい状況の地域があるのも現実です。これらの地域の人々は、例えば、「薬の説明や注意書きがわからないために、病気になって薬をもらえても、飲み方がわからない」、「危険エリアに注意書きがあつても理解できないので、命の危険にさらされる」など日常生活に不都合が生じることもあるのです。(ワールド・ビジョン・ジャパンHPから一部抜粋) 日本はその教育を受ける権利が保障されています。

しかし、その教育を受ける権利を十分に活用できているのでしょうか。昔、読んだ本に、嫌いな食べ物を克服する方法として「1度目は嫌だと思つても顔に出さないでおく。そしたら2度目は大して嫌だと感じなくなる。そして3度目には平気になる」という趣旨のことが書かれてあるのを見ました。これは苦手科目の克服にも使える気がしますので、試してみてください。

さて、本校は校舎改築も進み、学ぶ環境としては素晴らしい場所だと言えます。このような環境にしながら、勉強をがんばらなかつたために入社したい企業、行きたい学校にいけなかつたとなつてしまうのは、とてももったいないことです。恵まれた教育環境にいることをぜひ生かして、自分の夢を叶えるために積極的に学んでいってほしいと思います。

ここで次の学年へ進む前に、自分の学習に対する姿勢を見直してみましよう。将来の自分のために、今の自分に何ができるか、そしてやるべきことは何かを考えましよう。未来の自分がよりよい人生を過ごせるように、精一杯後悔のない高校生活を過ごしてください。

「総合型選抜について」

進学をする人たちにとっては、どのような選抜方法を利用して受験するかを考える必要があります。本校生で進学をする生徒たちの多くが学校推薦型選抜を利用していますが、総合型選抜という方法を利用する生徒たちもいます。今回はこの総合型選抜についての紹介と、裏面に総合型選抜で国立大学進学を決めた2人の3年生の体験談を紹介します。

まず、総合型選抜とは「その大学でこんなことを学びたい」という意欲や入学後の目標が重視される入試です。学校長の推薦は基本的には不要です。書類審査や面接だけでなく、知識や思考力・表現力等、多面的に評価する選抜方法が増えていきます。選抜方法が多岐にわたっており、大学ごとの特徴が出やすい入試方式です。受験したいなら早めに募集要項を確認し、出願条件や試験の内容をチェックしたほうがよいです。特にレポートを提出したり、研究発表を行つたりする試験の場合は準備に時間がかかるので、受験勉強と並行して進められそうか、よく考えることも必要です。(ベネッセ マナビジョンHPより)



① 長崎大学工学部機械工学コース

<受験を決めた時期>

3年生の7月

<総合型選抜での受験を決めた理由>

大学入学共通テストが必要な推薦型選抜よりも、受験しやすいと思ったから

<受験日程>

令和3年10月16日（2次試験）

9時に集合、10時まで数学・面接、10時から10時半まで英語・物理

<試験科目等>

1次試験・・・志望理由書、2次試験・・・個人面接、口頭試問（数学・英語・物理）

<受験対策>

3教科とも教科担任の先生方と口頭試問の練習

数学は教科書を1～2周、物理は物理基礎と物理（専門）を1～2周

<後輩たちへのアドバイス>

わからないことがあっても、何かしら書いたり、発言したりすることが大事



② 九州工業大学工学部工学4類（応用化学科）

<受験を決めた時期>

3年生の6月頃

<総合型選抜での受験を決めた理由>

- ・どうしてもここに合格しなかったので、少しでも受験機会を増やしたいと考えたから。

（一般選抜以外の入試が非常に豊富で、総合型選抜は最も早い試験だった）

- ・大学が示した総合型選抜の実施目的に、「高校での学びを大学に生かす人材」とあり、自分の学びを生かせる入試だと感じたから。

<受験日程>

（一次試験）令和3年9月18日（土）

13時50分から15時10分まで講義レポート、15時50分から16時50分まで課題解決記述問題

（二次試験）令和3年10月16日（土）

8時50分から9時50分まで理科と数学、10時から10時20分まで英語

10時40分から11時10分までグループワーク、11時30分から11時40分まで面接

<試験科目等>

CBTによる適性検査（数学と理科60分、英語20分）、個人面接（4人対1人）10分
グループワーク（6人1組）30分

<受験対策>

- ・講義は大学レベルなので、YouTube等で様々な分野の大学の講義を見て、書く練習を行った。
- ・レポートや記述問題を友人や先生方に見てもらい、内容が伝わるか、分かりやすいかの助言をもらった。
- ・初対面の人とグループワークをするなど、本番を想定して練習をした。
- ・出題範囲を確認して、センター試験の過去問や基礎問題集を解いた。

<後輩たちへのアドバイス>

とにかく勉強をして、自分のやりたいことに向き合ってみてください！

また、合格はゴールではありません。（大学からの大量の宿題に現在追われ、毎日勉強しています。）その先を見据えて頑張ってください。

